

トマト・キュウリの品質競う ～県施設野菜共進会(野菜の部)～

県施設野菜組合連合会（事務局：全農かながわ）が主催する「第44回神奈川県施設野菜共進会（野菜の部）」が、4月10日、県立フラワーセンター大船植物園で開催された。県内10地区からトマト71点、キュウリ83点、合計154点が会場に集まった。

県農業技術センターの北宣裕所長が審査長となり、県職員や市場代表者らによる審査の結果、神奈川県知事賞に斉藤博さん（平塚支部）のトマト（ハウス桃太郎）と深田博子さん（平塚支部）のキュウリ（極光607）が輝いた。他トマト10点、キュウリ12点が特別賞に選ばれた。受賞者は別表のとおり。

審査講評では「トマトは、系統や品種の差がある中で、温度管理など調節しながら上手に作り、生産技術の高さを感じた。特に県



選りすぐりの施設野菜が集まった

知事賞のトマトは、色つやがきれいで花落ちの跡が小さく大きさも揃い素晴らしい」「キュウリは、品種特性による差、主枝と孫枝の差がある中で、全体的に良い出来だった。品種がかなり入れ替わっており、今後も栽培品種がどう変化していくのか興味深い」と評された。

施設連役員のひとり「規定数のトマト7玉、キュウリ10本のうち1つか2つ惜しい出品が多かった。選りすぐりの出品の中では、小さな欠点でも減点になる」と審査を振り返り、「今後も県・関係機関のご指導を頂き、良いものを作っていく」と述べた。褒章授与式は7月開催の総会で行う予定。

審査後に出品野菜を即売し、来園者に県産トマト・キュウリの美味しさと生産技術の高さをPRした。



慎重に特別賞22点を選出した



県知事賞を受賞した、斉藤博さんのトマト（左）と深田博子さんのキュウリ（右）